



ふれあい



【重点教育目標】

学びと社会とのつながりを実感し、
笑顔と活力で能動的に学び続ける子供の育成

『子供の成長が実感できる笑楽校』を目指して パート2

校長 小野 直久

教育活動の中で最大の体育的行事である運動会を5月18日に開催することができました。子供たちは、体育の授業等において、「より速く走るために」「より上手にできるために」など、それぞれが目的を達成するための方法を考え、粘り強く工夫・改善しながら取り組んできました。当日は、これまでの取組の成果を発揮し、運動の楽しさ（運動をする楽しさ、他の人を応援する楽しさ、他の人から応援してもらう楽しさ、係活動を通して運動会の運営を支える楽しさ）を実感し、充実感や満足感をもつことができました。今後、ご家庭におかれましても、子供たちに生涯にわたって運動やスポーツに親しむ態度を育むため、お子様と一緒に運動やスポーツを楽しむ機会をつくっていただけると幸いです。

子供たちの非認知能力(内面の力)を育むために

「非認知能力」とは、ノーベル経済学賞を受賞したアメリカの経済学者であるジェームズ氏が提唱した考え方で、テストや試験で点数化・数値化して測ることができない、**自分の内面の力や人と関わる力**のことです。具体的には、忍耐力や意欲など自分の内面やパーソナリティに深く関わる力や、コミュニケーション力や思いやり、共感性など、他人と自分との関係で必要とされる力です。

千葉経済大学の横山洋子教授は、子供の非認知能力を伸ばすためには、真剣に対峙してくれる大人が、以下の関わり方や環境をつくるのが大切だと述べています。

①**子供が夢中になれる環境をつくる。**子供が興味・関心あることに楽しみながら試行錯誤を重ねることで主体性が身に付きます。また、大人と一緒に楽しんで共感することで、子供は自分が認められていると感じ、自尊心や自己肯定感が育ちます。

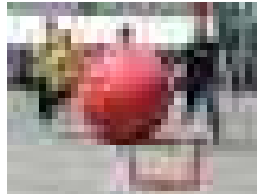
②**子供が自分で選んで決める経験をさせる。**「〇〇ちゃんはどうしたい？」「〇〇君はどっちをやりたい？」などと尋ねることで、子供は自分が選択権を持っていることを実感し、自分が尊重されていると感じます。また、判断力や自立心が育まれるだけでなく、自尊心や自己肯定感も育ちます。

③**子供の成長や成功を具体的に褒める。**「すごい」「えらい」など漠然とした言葉ではなく、「〇〇できたね」「〇〇を〇〇回できたことがすごいね」など具体的に褒めることで、子供は以前はできなかったことができるようになった、という自身の成長を実感することができます。このことにより、大人への信頼感と安心感が生まれ、次もやってみようとチャレンジする力や自立心が育ちます。

④**大人が子供に「ありがとう」と言う状況をつくる。**「ありがとう」は最高の褒め言葉です。子供の言動に対して「話してくれてありがとう」「〇〇をしてくれてありがとう」などの言葉は、子供の自己肯定感を育む最高のエッセンスとなります。

学校はもとより、ご家庭におかれましても、横山教授が述べている上記の関わり方を大切にいただき、子供の成長が実感できる笑楽校をつくりたいと考えています。

運動会



18日(土)は、好天に恵まれ、青空の下で運動会を行うことができました。今年度も午前2ブロック制でしたが、ブロック編成の変更、応援係の設置、総練習の実施など、昨年度からの改善を図りました。事前に行った総練習

では、特に開閉会式の場面でふざけやおしゃべりなどがありましたが、当日は、開始前の整列から気持ちの引き締まりが態度に表れていました。競技では、時折吹く強風の影響を受けて練習どおりにいかず苦勞する様子もありましたが、全力で臨み、勝負し、運動会を楽しむ子供たちの姿を見ることができました。5・6年生は、係活動にも意欲的に取り組み、教職員と一緒に運動会の運営・進行をしっかりと支えてくれました。

ご家族やご来賓の皆様には、頑張る子供たちにたくさんのご声援をいただきありがとうございました。また、来校・観覧のルールとマナーが守られ、気持ちよく運動会を終えることができました。ご理解とご協力に感謝申し上げます。

子供たちが運動会の成果を学校生活に生かしていけるよう、また、次年度も競技する側・応援する側のどちらにとっても楽しい運動会となるよう、学級・学校でしっかりと振り返りを行い、今後につなげていきます。

集団下校訓練

10日(金)に集団下校訓練を行いました。班ごとに教室に分かれて班員や並び方などを確認した後、全員が体育館に集合しました。…しかし、子供たちの私語がなかなかやまず、場の空気が落ち着くまでに時間を要しました。集団下校の目的は、「非常時に全員が速やかに安全に下校できること」です。残念ながら、目的を意識した緊張感はあまり伝わってきませんでした。

集団生活で命を守るために大事なことは、「素早く切り替える」「話や放送をしっかりと聞く」「素早く整列する」「何のために、どうするとよいかを自分で考える」など、日常指導されていることにあると考えます。そして、訓練では、それらができているかどうかははっきりと見えてきます。「自分の命は自分で守る」ことが求められています。改めて、子供たちが日常行っていることの大切さや意味を理解し、身に付けていけるような指導を心掛けていきます。



6月

【生活目標】きまりを守ろう
【給食目標】よくかんで食べよう
【保健目標】歯を大切にしよう

- 3日(月)全校朝会
- 4日(火)スクールコンサート
- 5日(水)遠足(1~4年 弁当)
- 6日(木)クラブ
- 7日(金)遠足予備日(1~4年 弁当)
- 10日(月)宿泊研修結団式(5年)
- 11日(火)宿泊研修1日目(5年)
- 12日(水)宿泊研修2日目(5年)
- 13日(木)宿泊研修回復日(5年)
- 14日(金)諸費納入期限日
- 16日(日)ノーメディアデー
- 17日(月)人権教育ワークショップ(保護者対象)
- 18日(火)、26日(水)スクールカウンセラー
- 20日(木)クラブ
- 24日(月)避難訓練(水害)
- 26日(水)修学旅行結団式(6年)
- 27日(木)修学旅行1日目(6年)
- 28日(金)修学旅行2日目(6年)

今、学校では...

今月21日から31日までをいじめ防止強化期間とし、アンケートと教育相談を行いました。今後は、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に向け、気になる事案について全教職員で情報共有を進めていきます。

先月、いじめに関する取組等をまとめた文書を配付しましたが、法の定義上、いじめとは、行為を受けた児童が苦痛を感じているもの、とされています。学校の事案として多いのは、「言葉」と「接触」です。特に、「キモい、ウザい、死ね」という存在自体を否定する言葉が目立ちます。学習などをやりたくないとき、気分がよくないとき、遊びや勝負事で望まない結果になったとき、ふざけているとき、会話をしているとき…など、反射的に飛び出す様子が見られます。昔は、けんかで「バカ、アホ、マヌケ」などの常套句が出たものですが、今は、決まった場面も相手もないように感じます。当然、学校で指導していますが、特に口癖のような状態にある場合には、場や相手を考えた言葉を使うことに対する意識化が難しくなっています。子供たちの実情をご理解いただき、共に指導をお願いします。